

令和3年度 市におけるいじめ防止等に係る取組
(芦屋市いじめ防止基本方針7、8頁についての実施状況の報告です。)

No.	項目	内容	担当課	令和3年度の実施状況
1	教職員の資質能力の向上	学校基本方針、「いじめ対応マニュアル」(兵庫県教育委員会発行)、「生徒指導リーフ増刊号いじめのない学校づくり」(国立教育研究所発行)、「いじめ未然防止プログラム」(心の教育総合センター)等の活用や、いじめの具体的事例をもとにした校内研修の実施を促す。	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 各校年間2回、スクールカウンセラーによるカウンセリングマインド研修を実施した。 芦屋市生徒指導連絡協議会を毎月開催し、各校の生徒指導担当教員、芦屋警察署等関係機関で、情報の共有と対応や取組の協議を行った。(5月・2月新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。)
		さらに、初任者研修・年次研修・管理職研修等の研修を実施し、法令の理解や危機管理意識を向上させ、教職員のいじめの防止等のための対策に関する資質能力の向上に必要な措置を講じる。	打出教育文化センター	<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修において、桃山学院教育大学教授 松久眞実先生を迎えて「子どもが輝く学級づくり」と題して子どもの些細な変化やいじめの兆候を見逃さないための手立てや対処方法などについて学んだ。(初任者14名) 2～5年次研修において、関西学院大学教授 久保田 真功教授を迎えて「いじめが起きにくいクラスと起きやすいクラスとの違いは何か」、また、関西学院大学 米山 直樹教授を迎えて、「子どもの特性に合わせた不登校への支援」と題して、子ども自身の特性・背景などを踏まえ、いじめや不登校を予防するための取組について学んだ 夏季教頭研修会において、神戸医療福祉大学准教授 永浦 拓先生を迎えて、「児童生徒のネット依存、ネットトラブル」に対する組織的な対応について学んだ。(教頭11名が受講)また、「法的な視点を生かした生徒指導・保護者対応」について、弁護士でもある兵庫教育大学副学長 神内 聡先生から学んだ。(教頭・主幹教諭・生徒指導担当44名が受講)
2	早期発見・早期対応のための措置	【別表】 No.1 人権擁護事業 特設人権相談所を開設し、人権擁護委員がいじめや嫌がらせ等に関する相談に対応し、問題解決につなげる。	人権・男女共生課	<ul style="list-style-type: none"> 人権相談を実施した。(毎月2回) 人権擁護委員(法務大臣委嘱)による相談を実施した。(いじめ・いやがらせ、名誉棄損、信用問題その他人権に関すること) ※令和3年度はいじめ問題に関する相談なし
		【別表】 No.2 家庭児童相談 家庭児童相談員が家庭の養育についての悩みや心配事の相談に応じる。また、子どもの虐待に関する相談・指導等適切な対応を行う。	子ども家庭総合支援課	<ul style="list-style-type: none"> 家庭からの相談内容で、不登校や家庭環境の不安定さからいじめを発見できる可能性があり、相談面接等の聞き取りから早期発見に努めている。 虐待を受けている児童や非行等の行動がある児童については、いじめの被害者にも加害者にもなる可能性があるため、児童が健全な生活を送れるよう支援している。 いじめの被害により、ストレス症状を発症した子どもの支援を西宮子ども家庭センターと協力して行った。

No.	項目	内容	担当課	令和3年度の実施状況
2	早期発見・早期対応のための措置	<p>スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等を配置し、児童生徒や家庭からの相談を受ける体制や学校だけでは困難な事案について、学校支援チーム等を活用して専門的、多角的な支援体制の拡充を図る。</p> <p>【別表】 No.3 芦屋市カウンセリングセンター教育相談 不登校、非行、性の問題等の子どもや親子関係等の悩みについて、電話、面接による相談を実施する。</p>	学校教育課	<p>・スクールソーシャルワーカーを、教育相談や緊急時案の対応等で、中学校へ64回、小学校へ69回派遣した。ケース会議にも10回派遣し、相談にあたった。</p> <p>・スクールカウンセラー6名を、年間235時間配置。教師・児童生徒・保護者向けの研修会を各学校2又は3回実施した。</p> <p>・芦屋市カウンセリングセンターに業務委託し実施した。(電話相談133件 面接相談167件)</p> <p>・相談窓口ポスターを作成し、各学校へ配布、掲示を行った。</p>
		<p>【別表】 No.4 打出教育文化センター教育相談 不登校・友人関係等学校園における悩みについて、電話、面接による教育相談を実施する。</p>	打出教育文化センター	<p>学校教育部の教育相談体制を見直し、教育相談の窓口を学校教育課にしたため、令和3年4月1日より打出教育文化センターの不登校・友人関係等の教育相談業務を廃止した。</p>
		<p>【別表】 No.5 青少年愛護センター相談 青少年の問題全般について、電話、来所及び訪問による相談活動を実施する。</p>	青少年愛護センター	<p>青少年愛護センターで受理した相談件数は7件で、その内いじめ・不登校に係る相談は2件であった。情報を得た場合には、該当学校及び関係機関と連携して対応している。</p>
		<p>教職員が児童生徒と寄り添う時間を確保し、常に児童生徒の状況を把握するとともに、児童生徒との関係を深め、いじめ防止等に積極的に取り組むことができるようにするために、校務支援システムの活用等により、事務処理の軽減等学校業務改善に努める。</p>	教職員課	<p>・教職員が児童生徒と寄り添う時間を確保するため、行事や会議等のあり方を見直し、総業務量の縮減を図った。</p> <p>・芦屋市学校業務改善ポリシーを策定し、それぞれの立場で直ちにに取り組めることを明示した。</p> <p>・応答メッセージ機能付電話機を活用し、教員の時間外対応の縮減を行った。</p>

No.	項目	内容	担当課	令和3年度の実施状況
3	啓発活動	<p>① いじめが児童生徒の心身に及ぼす影響、いじめを防止することの重要性など、「子どもと語る会」等を通して、児童生徒が「いじめ防止等」に対する意識を高めるよう努める。</p> <p>② 生徒指導連絡協議会等と連携するとともに、人権週間でのパンフレット配布やリーフレット、講演会等を通して、機会があるごとに家庭・地域への啓発を行う。</p>	人権・男女共生課	<p>・人権教室の開催 人権擁護委員がDVDや紙芝居等を用いて、子どもたちに、「思いやりの心」「いのちの大切さ」を楽しくわかりやすく学んでもらうことを目的に授業を行った。 山手中学校 530人(R3.6.18)、潮見幼稚園 38人(R3.10.26) ※人権擁護委員、市、法務局の共催事業</p> <p>・人権の花運動の実施(潮見幼稚園) 花の種子、球根等を配布し、児童等が協力し合って育てることを通じて、協力、感謝することの大切さを生きた教育として学び、生命の尊さを実感する中で、人権尊重思想を育み情操をより豊かなものにすることを目的とする。 ※人権擁護委員、市、法務局の共催事業</p> <p>・「第69回ふれ愛シネサロン・いじめ防止啓発映画会」にて啓発チラシ、啓発缶バッジ等を配布した。(R3.11.6) ※子育て推進課と連携して実施</p> <p>・「日々の生活と人権を考える集い2021(市制施行80周年記念事業として実施)」にてパンフレットを配布した。(R3.11.28)</p>
		<p>② 生徒指導連絡協議会等と連携するとともに、人権週間でのパンフレット配布やリーフレット、講演会等を通して、機会があるごとに家庭・地域への啓発を行う。</p> <p>③ いじめ問題対策連絡協議会主催で、小中学生に対する啓発を企画し、全市的に取り組む。</p>	子育て政策課	<p>・子どもの権利条約のリーフレット(乳幼児版、小学生版、中高生版)を配布した。(対象:保育所5歳児、幼稚園年長、小学6年生、中学3年生)</p> <p>・「いじめ防止週間」(期間 令和3年10月25日～11月19日)を策定し、市内小・中学校15校(県立・私立含む)を対象に、過去の受賞作品を用いたのぼり旗を設置し、いじめ防止啓発チラシの配布や過去の受賞作品を用いたポスターを掲示した。</p> <p>・第69回ふれ愛シネサロン・いじめ防止啓発映画会にて、いじめ防止啓発チラシ・缶バッジを配布した。</p> <p>・芦屋市コミュニティ・スクール連絡協議会に啓発チラシを配布した。</p>

No.	項目	内容	担当課	令和3年度の実施状況
3	啓発活動	<p>① いじめが児童生徒の心身に及ぼす影響、いじめを防止することの重要性など、「子どもと語る会」等を通して、児童生徒が「いじめ防止等」に対する意識を高めるよう努める。</p> <p>② 生徒指導連絡協議会等と連携するとともに、人権週間でのパンフレット配布やリーフレット、講演会等を通して、機会があるごとに家庭・地域への啓発を行う。</p>	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て推進課と連携し、市内の小中学生を対象に啓発事業を実施。 ・各学校で、必要に応じて、学校いじめ防止基本方針を見直し、ホームページの内容を更新した。 ・保護者・地域向け「いじめ防止啓発チラシ」の配布した。 ・いじめチェックリストを活用する等、児童生徒の日常の様子からも、教職員が早期にいじめを認知できるよう取り組んだ。
			青少年愛護センター	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成愛護委員の班集会(小学校区ごと、月1回)において、ネットに潜むいじめに関する事案を紹介して注意喚起を行った。 ・例年ならば中学校区青少年健全育成推進会議及び青少年育成愛護委員会との共催で研修会を開催しているが、令和3年度は新型コロナウイルス流行により、実施できていない。
4	学校におけるいじめの防止等の取組の点検・充実	教育委員会は、いじめの実態や学校における取組状況を点検し、学校におけるいじめの防止等の取組の充実を促す。また、いじめを早期に発見するため、児童生徒に対する定期的な調査その他の必要な措置を講じる。	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを、市内の全小中学校で毎学期実施し、対象者には、その後、二者懇談等を実施した。 ・担任、担当学年だけでなく、養護教諭、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにも積極的に相談し、児童生徒ならびに保護者に対する相談体制を充実させた。 ・必要に応じて、関係機関と連携したケース会議や校内研究会等での研修を実施した。 ・日々の観察だけでなく、生活ノート等を活用し、早期発見に努めた。 ・早期に適切な対応をするため、芦屋市生徒指導連絡協議会で事例の検討・協議をした。
5	インターネット等を通じて行われるいじめに対する対策	<p>児童生徒、教職員に対してインターネットを通じて行われるいじめの防止や効果的な対処について学習する機会を確保し、あわせてインターネットの正しい活用など情報モラル教育を推進する。</p> <p>また、児童生徒のパソコンやスマートフォン等を管理する第一義的な責任を負う家庭に対し、フィルタリングの利用や家庭でのルールづくり等、子どもにスマートフォン等を持たせる際の保護者の責務を周知する。</p>	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等(技術家庭・国語・特別活動)で情報通信ネットワークや個人情報保護、スマートフォンやSNSの危険性について、考えたり、議論したりした。 ・外部講師(警察等)を招いて、学習会を実施した。(小学校2校)
			打出教育文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台のタブレット端末貸与の際には、家庭向けに注意事項や家庭でのルール作りに関する啓発プリントを配布した。また、県や国からの情報モラルに関する啓発資料を配布するよう学校へ依頼し、保護者への周知に努めた。 ・芦屋市情報活用能力体系表を参照しながら発達段階に応じた「情報セキュリティ・モラル」についての指導をおこなうよう働きかけ、各校で実践を積み重ねた。